

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 2 日	開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 25年 9月 26日	評価結果決定日	平成25年 10月 17日

(ユニット名 ユニット2「ツウー」)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット目に記載

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生き方を住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるように、しっかりと理念に盛り込み、常に実践に向けて支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例の地域の春祭りから、施設の夏祭り等を地域住民との合同の行事を行う事により、常に地域の一員として、交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解していただく為に地域の方々が参加できる「認知症サポーター養成講座」を毎年開催している。小学校への福祉出前講座等も今年度は実施した。子供から大人まで認知症の事を理解してもらうように、学習の場の提供に努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2か月に一回)に運営推進会議を開催し、色々な話題を提供し、又利用者様のADL状況や、施設の行事等について話し合い、より良いサービスが出来るように意見を頂いている。会議録に回覧により、全職員に報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の窓口には、定期的に伺い、利用者様の状態変化や事業所内での取り組みを随時伝え情報の共有化に努めている。推進会議へのご出席も頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	拘束のない介護の実現を理念に掲げ、施設内研修や外部研修に参加し、職員間で研修報告をし、学習した内容は共有しており、利用者様の状況に応じた、拘束をしないケアを実践する為、リスクを含めた点まで家族との話し合いを持ち、出来るだけの工夫をこらして介護にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や、外部研修等で、学びあい、虐待の広い意味での意識を持ち、小さな虐待や気付かな虐待も起こさないように、職員同士話し合う事により、見過ごされる事のないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の利用者様や、日常生活自立支援事業の利用者様もいらっしゃるので、職員全員が、学ぶ機会があった。支援員との対応とで、勉強させてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要説明事項説明書を入居前のご家族様、ご本人様へわかりやすく説明を行って、不安のなく利用できるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の意見や、利用者様・家族様の要望等は随時、気軽に話せるような雰囲気作りをしており、運営推進会議等でも、意見を話してもらい機会がある。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での発言や、日常的にも、気付いた時に代表者に提案をできるような雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力に対して、普段の勤務状況を把握してもらっている。研修会・資格取得等本人のやる気に対して、向上心を認めてもらえる環境にある。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップにつながる、内部、外部研修に参加する機会を配慮していただき、研修報告も、全体会議で受ける事により、一人一人の資質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	入所部会や研修会への参加を通し、他施設との情報交換や意見交換を行っている。グループホーム連絡協議会への参加で研修を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族が不安にならないように、ゆっくりと事前面接では、お話を聞くように対応している。施設見学の場合でも、普段の様子を安心して見てもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設として出来る事と出来ない事の説明をきちんとし、家族と、本人の思いが一緒にならない場合も有るので、ゆっくりと理解してもらうように対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を通して、本当に必要なサービスについて、しっかりと話し合うように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いや、昔のことわざを聞いたり、職員と利用者は常に仲良く関わりあっており、良好な関係にある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠距離の家族に対しては、写真入りの手紙や、電話・メール等の活用を通して家族の絆を支えるようにしている。面会に来ていただける家族様には、ゆっくりとお会いできるように、家族の大切さをわかってもらうように支援している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居しても、近隣の友人や、関わりあってもらった民生委員・ケアマネさんとのつながりは大事にいただき、随時面会も頂くように対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症であっても、職員の声かけで利用者同士が家族のように、支えあい、助けの必要な利用者同士も、優しさを持って過ごせている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により、やむ得なく退居となる事例もありましたが、退院後のサービス利用について家族様、医療機関と共に、相談に応じて、希望に応じたサービスにつなげられるように支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時には、全職員が利用者様の声にならない思いを、日頃の表情やしぐさ等から、気付く事を話し合いプランに反映させるように作成し、支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居の方などの場合には、入居後であっても、面会等の友人や、民生委員様等からの、聞き取りなどで、これまでの生活歴や、生活環境等をお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の連日の状況について、職員は、申し送り時間に、記録のみでなく、きちんと報告しあい、状況の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成にあたり、本人の意向が聞き取れない場合でも、家族様よりの希望をお聞きし、又、日常的生活の中から、本人のしぐさや表情等から、好む事の把握に努めプランに反映するように作成し、6ヶ月毎の評価会議をもって、継続や変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌や、本人の経過記録簿以外に、特変時や、受診結果等申し送りノートの活用で職員間の情報の共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容師さんの定期的な訪問により、顔なじみの関係で、楽しいひと時を過ごされている。又、民謡や踊りボランティアの訪問によっても、利用者みな様が楽しまれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	状況のわかる職員の付き添い受診が多いのですが、家族様に付き添って頂く時には、情報を詳しくと伝える為に、手紙を持って行って頂いています。かかりつけ医との連携はうまくいっています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	利用者様の状態について気付いた点、特変についてはただちに代表者である看護師に伝え、迅速に処置並びに受診が行える環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に対してこれまでの経過情報を提供し、入院中の連絡を密にして、病状が安定しての退院に向けた相談も医療機関や、家族とよりよい方法を検討するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化による場合の対応については、施設が出来る事と出来ない事について説明をさせていただいている。本人家族様が望む場合には、医療機関と共に連携を持ちながら、協力しあい、終末までのケアを支援していくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてマニュアルを基に看護師である、代表より、全職員が研修を受けている。事故発生時には、当日のうちにカンファレンスを行い、対応が間違いなかったか、等検討し、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は半年に一回実施しているが、地震・水害等の訓練はマニュアル等で研修を全職員が受けている。又地域の消防団員との話し合いの機会を設け、災害時の協力をお願いしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人のプライバシーを大切に個人情報保護条例や、守秘義務の重要性について、研修会を持ち、日常の関わり中で人格を尊重する声かけの対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員は常に声かけをし、本人の意思確認を行い支援し、又意思表示が伝えられない利用者様には、しぐさや表情からその思いをくみ取る努力をして、対応させてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、食事時間等は、個人的に違いがあったり、体調によっても、居室で休憩したいなど、本人の希望にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院で御洒落染やパーマをかけたり、出張サービスでカットや顔そりを受け、それぞれのおしゃれをしてもらっている。毎日の洋服も自分で選んで着る事が出来る支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の美味しい匂いを感じながら、食事の楽しみを持ってもらい、揃っていただく事で、食欲不振の利用者への声かけや個人個人に合った食事形態を工夫して支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の確保には、特に個人的に声かけで促し、時間をかけても飲んで頂くように支援しています、摂取状況は記録し、職員間共有できており、利用者様によっては、栄養強化食品や飲料の提供する等の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。不十分な方、自力で困難な方には全面的に支援している。義歯のし使用者には、就寝前、洗浄剤を使用して汚れを防止している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を基本として、排泄パターンの把握を基に夜間のポータブル介助などで、おむつ使用をせずに、失禁防止に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者様に対して、意識的に、水分量を増やしたり、食物繊維の多い食品の提供や、腹部マッサージで促したり、気持ちよく排泄ができるように支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴介助時には、職員との大切なコミュニケーションの場となり、時には、歌声が聞こえたり、楽しみの時間です。体調や、本人の希望によって、入浴予定が変更になる事も有ります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のまどろみや午睡も含めて安心して過ごされている環境に有ります。寝付かれない利用者様がられる時は、夜勤者が寄り添いお話を聞いたり、暖かい飲み物を出したりと、安心していただけるように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助には、間違いのないように、職員間で個人の薬の情報を把握しており、処方変更時には、申し送りノートに記録し、全職員が理解し、本人の状態の観察に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お皿拭きや洗濯物たたみ等、毎日の仕事として手伝ってもらっている。リビングでの、ソファに座っているだけで、他利用者様の見守りをお願いし、役割として張り合いを持ってもらう等、色々な小さな事でも、喜びや、張り合いに繋がるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には、近くの戸外でおやつを頂くなど、少しでも、季節感を体感してもらえるように努力しています。友人のお誘いで食事会に出かけたりする事が出来るような支援をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方は個人で金銭を持っている方もいます。職員付き添いで買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機の使用で自室で家族との電話交流が出来る環境の配慮をしており、手紙の投函やあて名書き等の支援など本人の希望を叶える支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ表示をわかりやすくしており、陽射しをさけるカーテンなどで、利用者様の声を聞き温度調節を行ったり、居心地の良い空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サイズの違うソファを置き、隣同士が気の合う人になれるような環境とし、長いソファでは、横になったりゆっくりできるようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員が思い思いに、本人の希望のもと、お部屋飾りをしている。家族写真や、誕生カードなどや、季節感のあるカレンダーなど、本人が楽しめる空間作りとし、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	同じ作りの居室の入り口に、利用者様が間違える事のないように、表札とは別にマスコット等を吊るして目印を付けている。		